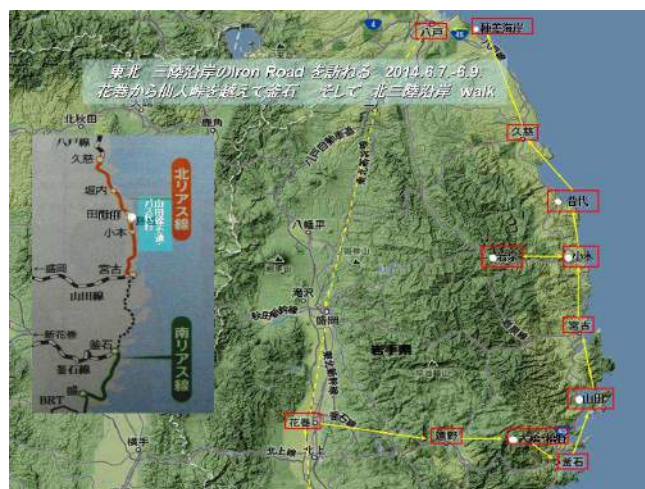


5. 東北 三陸沿岸の Iron Road 再訪 まとめ 2014.6.7.-6.9.



北上川が流れ下る岩手県中央 北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼すむ誇り その瀬音 久遠の賛歌 この大地 燃えたついのち ここは北上」
と故郷を切り開いてきた先住の人たちや故郷の大地・川・山への強い連帯の思いと共感を歌い上げます。
また、険しい北上山地に抱かれた南部では「田舎なれども 南部の山は 西も東も金の山」と謡う

私の好きな東北 私にとっては奥出雲と並ぶもう一つの鉄の故郷。私の製鉄遺跡探訪のCountry Walkのタイトルに「Iron Road・和鉄の道」と名付けてライフワークにしようとのイメージが出てきたのもこの東北・三陸沿岸久慈。その東北が東日本大震災と大津波に襲われて3年。その惨状と復興の厳しさに 気になって気になっていましたが、足を踏み入れることができません。
3年が経ち、三陸沿岸で暮らす人たちの絆「三陸鉄道 北リアス線が全線開通」と聞き「今、この三陸に出かけることも応援の一つ。」

震災後の三陸沿岸の街の今をしっかりと見てこよう。 また、再度三陸沿岸の Iron Road をたどって、三陸沿岸の Iron Road に新しいイメージを加えたい」と。

この6月 東京へ行く機会に、北上山地の難所 東仙人峠を列車で越えて、釜石から北へ 山田・宮古・普代・久慈・八戸と「三陸沿岸の Iron Road ・和鉄の道」をたどりました。

まだまだ 三陸の厳しい現実を眼にすることも多かったのですが、困難に立ち向かう行く先々で、多くの人たちに明るく親切に follow してもらって、感謝と共に、ほっとして、思わず「がんばって 応援しているよ」と。

また、三陸沿岸の製鉄関連遺跡や砂鉄浜そして今発掘が進む 製鉄遺跡現場にも行ってこれました。

気にかかっていた三陸へやっとなって行きました。

南北に広がる東北地方の中央部 蝦夷の根拠地でもあった岩手県では 東に北上山地 西に奥羽山脈の険しい山々が南北に峰を連ね、太平洋側三陸沿岸へ出るには北上山地にある東仙人峠 西の日本海側出羽へは奥羽山脈の西仙人峠（和賀仙人峠）を越えてゆかねばならなかった。

どちらの「仙人峠」も中央との交流・文化とも一線を画す険しい山越の道であるばかりでなく、東北有数の鉱物資源帯「金山」のまっただ中にある峠である。

東北のたたら製鉄を調べていて 一番最初に興味を持ったのが、

「この二つの仙人峠と大和に対抗した蝦夷たち。そして彼らが手にして大和を悩ましつづけた蕨手刀」

この北上山地や奥羽山脈に眠る「金山」の支配を狙って、大和の東北蝦夷征伐が始まったとも言われ、北上川が流れ下る内陸中央部に本拠地を持ち、大和と対抗した蝦夷たちの後背地がこの2つの険しい峠の向こうにある出羽・三陸（閉伊）だったともいわれる。

強力な大和に蝦夷たちが対抗できたのは、突くことから切ることに目的をかえ、自由に操つことができた「蕨手刀」の存在。強靱な鉄で作られた小ぶりで反りのある「刀」。

日本刀のルーツともいわれる。

この蕨手刀のルーツはどこか??

厳しい中央統制の中で、辺境の蝦夷たちはこの蕨手刀製造の製鉄・鍛造技術をどこで育てたのか・・・

古代 東北では大和の箱型炉とはルーツを異にする半地下式の竪型製鉄炉を急速に広げている。

この東北で育まれた竪型製鉄炉が蝦夷たちの武器製造に使われたのか・・・

「田舎なれども 南部の山は 西も東も金の山」と謡われた鉱物資源帯 三陸沿岸がその兵器庫だったのだろうか・・・

この蝦夷の雄「アテルイ」の顕彰碑が敵対した征夷大將軍坂上田村麻呂ゆかりの京都清水寺にある。

そして、東日本大震災の後、いち早く東日本大震災被災者支援の声を上げた寺でもある。

また、北上山地を背にリアス式海岸が続く三陸沿岸の眼前には豊かな海が広がり、山には岩鉄・川には餅鉄・浜には砂鉄が堆積する砂鉄浜が点々と続き、久慈・八戸は日本有数の砂鉄層が埋まっている。

また、三陸沿岸 釜石の背後の北上山地東仙人峠近くの山中 大橋・橋野は幕末から明治初期 洋式高炉が立ち並ぶ日本の近代製鉄発祥の地。今 世界産業遺産登録を目指した取り組みが復興の町興しの一つとして進むと聞く。また、眼前の三陸の海は魚や海藻など海産物の宝庫。三陸沿岸の森から海に流れ込んだ鉄が育む豊かな海。三陸沿岸の人々の暮らしを支える海。今 その海が少しづつ戻りつつあると聞く。

どうしても足を向けられなかった震災後の東北・三陸沿岸の Iron Road しっかりと歩いてきたいと。

2014.6.7.早朝 土砂降りの雨 東京から東北へ向かう新幹線で

by Mutsu Nakanishi

5. 東北 三陸沿岸の Iron Road 再訪 2014.6.7- 6.9.

【まとめメモ リスト】

三陸沿岸の Iron road について、今回 垣間見て、自分なりにイメージを膨らませた事項・忘れてはならぬと思った事項など
メモ書き程度ですが、記録しておこうと 今回の三陸沿岸で見聞した事項を整理してメモリました。



東北 三陸沿岸の Iron Road 再訪 特に印象に残った景色

北上川が流れ下る岩手県の中央 北上市の市民憲章には
「あの高嶺 鬼すむ誇り その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち ここは 北上」
と故郷を切り開いてきた先住の人たちや故郷の大地・川・山への強い連帯の思いと共感を歌い上げます
また、険しい北上山地に抱かれた南部では
「田舎なれども 南部の山は 西も東も金の山」と謡う

5.1. 復興が進む中で 三陸沿 岸の街の今

- | | |
|----|---|
| 1. | 釜石の背後の高台に建つ仮設住宅群と釜石の街中で見た津波標識
イメージをはるかに超える津波の高さ |
| 2. | 三陸復興道路と三陸鉄道の開通
インフラ整備と外とつながれる沿線の人たちの喜び |
| 3. | 消え去った街並み跡に声も出なかった
津波で消えた大槌町・山田町の中心街 |
| 4. | 山田湾に無数に浮かぶ養殖いかだ
沿岸の山々の養分・鉄分が育てた豊かな海 |
| 5. | 山田町 船越半島
船越半島の中央を乗り越えていった津波のエネルギー |
| 6. | 普代の大防潮堤と普代川水門 そして 普代名物すき昆布 |
| 7. | トンネルからトンネルへリニア式海岸の集落を渡る三陸鉄道
高い土盛路線で復旧した田野畑村 島越駅 朝日新聞記事より |

5.2. 三陸沿岸の Iron Road

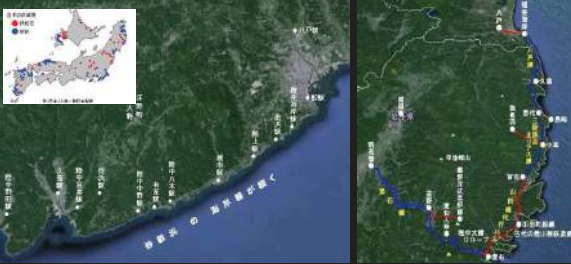
- | | |
|----|--|
| 1. | 内陸部と三陸沿岸を隔てる東仙人峠のすごさと陸中大橋
google鳥瞰写真で見る仙人峠の急峻さ |
| 2. | 洋式高炉が立ち並ぶ日本の近代製鉄発祥の地 陸中大橋・橋野
日本の近代製鉄発祥を成し遂げたベース技術 三陸沿岸のたたら製鉄 |
| 3. | 炭窯と堅型炉が近接同居する山田町船越の古代の製鉄遺跡
これが東北で育まれた堅型製鉄炉による製鉄場？
蝦夷の兵器庫 三陸沿岸の思いをダブらせる |
| 4. | 豊かな海を育てる沿岸の山々
沿岸の山々の養分・鉄分が育てた豊かな海 |
| 5. | 久慈・八戸の砂鉄と南部鉄
北三陸久慈・八戸に古代たたら遺跡はないのか・・・ |
| 6. | 砂鉄の宝庫 三陸沿岸の砂鉄浜 |



震災後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9

4. 久慈から八戸へ 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 2014.6.9

-



後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9

2014.6.9.

- ・新幹線 八戸駅15:06 はやぶさ24号で東京へ



9:35 普代から三陸鉄道で 霧雨の久慈駅着

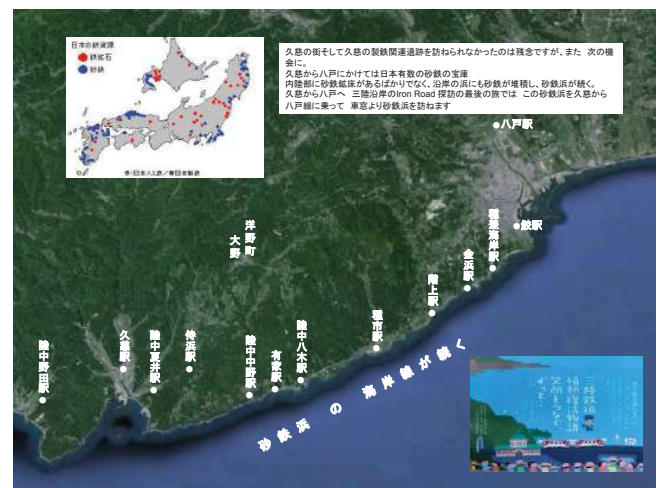
[illegible]

横須賀や三浦半島をはじめ、海岸部にはなだらかな台地が広がり、古くから牧畜に利用されてきました。この地形は、数十万年前の海底が隆起して、高台に平坦な地形が作られたものです。



© 2004 Blackwell Publishing Ltd, *Journal of Internal Medicine* 255: 105–112

波の浸食により平坦になった海沿いが、隆起することや台地上に平坦な地形が生まれます。これら繰り返して作られた階段状の地形が海面段丘です。海岸段丘上では農業や牧場などが営まれています。



— 11 —



海底の隆起が作った砂鉄資源

元山砂鉄採掘場は川崎製鉄久慈工場が製鉄の原料となる砂鉄を採掘した場所です。この採掘場の砂鉄はドバ(※1)という海底の隆起(※2)により発生した砂鉄鉱床です。また久慈工場はたたら製鉄の歴史に残る製鉄技術を導入した先進的な工場でした。

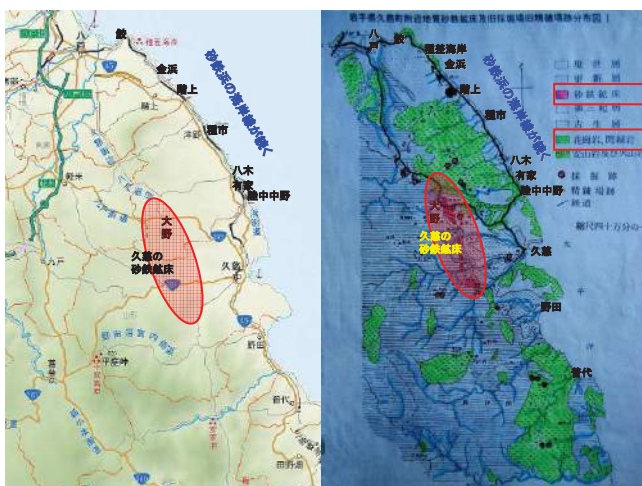
瓦山の断崖層は、標高約250mの断崖にあり、

す。この彫刻群は、かつて道直に造られた伊弉比神社により、山の上に持ち上げられたものです（深瀬城のある場所は海軍歴史公園にあります）。

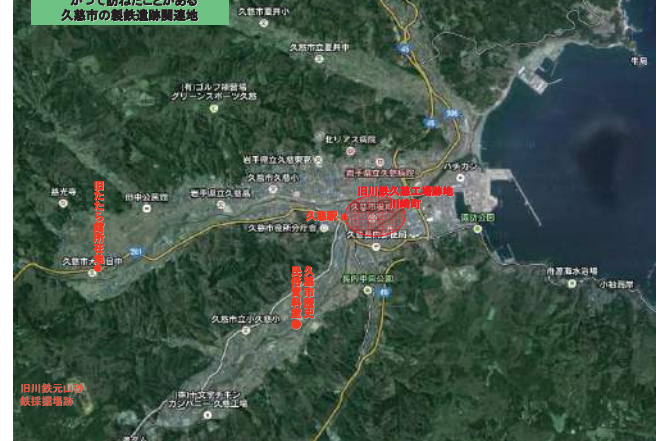
その遺跡群は、国内最大規模と言われています。この伊弉比神社は三笠海岸の隆起が生じた大地の遺跡なのです。



久慈圏辺の海岸段丘の分布図



久慈市の製鉄遺跡関連地



**久慈周辺は砂鉄(トバ・海鉄鉱)の大産地 この砂鉄を利用した近代的海綿鉄の生産
この砂鉄を使って昭和40年代まで海綿鉄を製造した川崎製鉄久慈工場**

久慈周辺は砂鉄(トバ・海鉄鉱)の大産地
この砂鉄を使って昭和40年代まで近代的海綿鉄の生産製造した川崎製鉄久慈工場があった小久慈地区
昭和42年(1967年)川崎製鉄久慈工場閉鎖後、その工場跡地に久慈市役所が昭和49年(1979年)に移設され、それから40年、工場跡地は行政、文化、ショッピングの新興地・川崎町として発展し現在に至っている。



4. 久慈から八戸へ。車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 2014.6.9.

久慈から八戸にかけては日本有数の砂鉄の宝庫
内陸部に砂鉄鉱床があるばかりでなく、沿岸の浜にも砂鉄が堆積し、砂鉄浜が続く。
久慈から八戸へ 三陸沿岸のIron Road 探訪の最後の旅ではこの砂鉄浜を久慈から八戸線に乗って訪ねます



1992年4月「アイアンロード」・「和鉄の道」(Iron Road)の冒険が浮かんた地 久慈駅前



三陸鉄道・JR久慈駅が並び立つ駅前 インターネットより採取

9:51 少し遅れて 八戸線 八戸行が久慈駅を出て 久慈川を渡って北に向かう 2014.6.9.

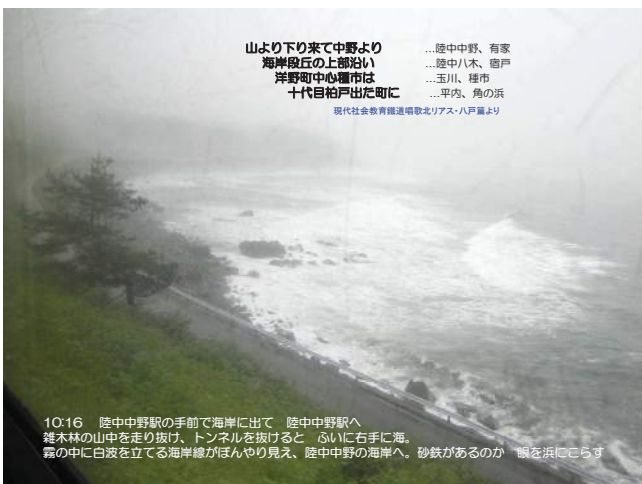


久慈よりJR八戸線
久慈川渡って海を指す
一番北の海女さんに
砂鉄に魅了もった跡
現代社会教育推進唱歌北リアス・八戸篇より



9:55 夏井駅
相変わらずの暴雨の中 久慈の街中を抜け、住宅地と林がまじりあう夏井駅。
これから、列車は小さな谷間を抜け、広い海岸段丘の上に出て、待浜へ
まだ 海岸は見えないが、待浜から北へ続く海岸段丘の縁の浜は砂鉄が堆積する砂鉄浜である

山より下り来て中野より
海岸段丘の上部沿い
洋野町中心種市は
十代目柏戸出た町に
現代社会教育推進唱歌北リアス・八戸篇より



10:16 陸中野駅の手前で海岸に出て 陸中野駅へ
雄木林の山中を走り抜け、トンネルを抜けると、ふいに右手に海。
霧の中に白波を立てる海岸線がぼんやり見え、陸中野の海岸へ。砂鉄があるのか 眼を浜にこらす



10:16 陸中野・有家駅周辺の海岸

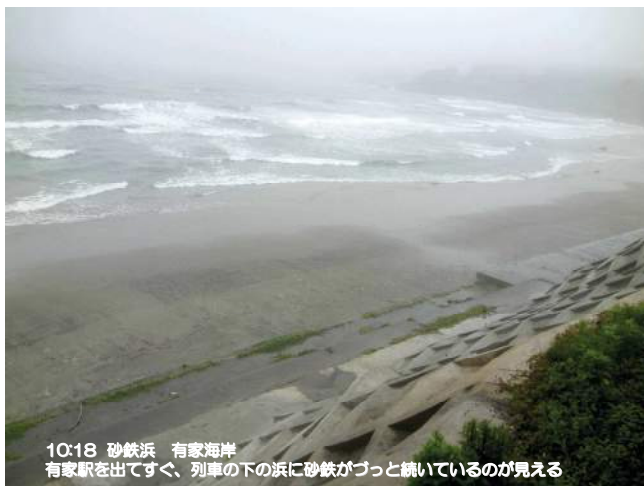


10:16 有家駅周辺の海岸
霧雨に隠る浜が見えているが、浜の状態はよくわからず まもなく有家駅



砂鉄が堆積した浜が続く 有家駅周辺
google写真にも 浜に堆積している砂鉄がよく見える

Google



10:18 砂鉄浜 有家海岸
有家駅を出てすぐ、列車の下の浜に砂鉄がずっと続いているのが見える



北三陸の砂鉄浜 八戸線 洋野町有家海岸 2014.6.9.



北三陸の砂鉄浜 八戸線 洋野町有家海岸 2014.6.9.



10:22 砂鉄浜に沿って北へ走ってきた列車は陸中八木駅へ



10:25 有家駅—宮戸駅間の砂鉄浜 宮戸駅のある丘が見えている 2014.6.9.



有家駅—宮戸駅間の砂鉄浜 宮戸駅のある丘が見えている 2014.6.9.



岩手/青森の県境 陸上岳 (岩手県では種市岳と呼ぶ)



10:35 種市駅 岩手県三陸沿岸最北部

洋野町種市
「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で
種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業
系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある
種市の平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県陸上駅
で 八戸はもうすぐである

八戸線は種市から北では 海岸より少し陸地側を
走るので 沿岸の浜はよく見えない

10:46 陸上駅 青森県三戸郡陸上町
ここからはもう 青森県
ウニいちご煮の壁の案内板が見える



陸上駅の次は大蛇駅 10:57着 そしてその次は八戸市に入って金浜駅
海岸線が見えないのでよくわからないが、「大蛇」「金浜」と銘くと製鉄所連地名なのかな...と思えてくる。
でも、「大蛇」は昔からある地名をその駅名に...でも 由来はよくわからないぞうだ。
「金浜」と銘くと砂鉄浜に連ない。でも 浜の様子がよくわからず。下車しようかと迷いながら、種差海岸
の「白浜駅」で下車。(当初は駅名まで行って バスで種差海岸に戻るつもりでしたが...)



11:02 岩手県三陸沿岸から青森県陸奥沿岸に入る 2014.6.9.

金浜駅をでると まもなく(緑の海浜公園)によく整備された海岸線が見えてきて、
八戸の観光地「種差海岸」の一角に入っただ。 駅までゆかず、近くで降りて 浜を歩いてみようと思える。



11:07 種差海岸駅

種差海岸駅に到着したが、駅前はひっそりとしたもので、浜も見えない。下車しようと思っていたが、
次が「陸奥白浜駅」とあり、浜に近いと考え、次の陸奥白浜駅で降りて、浜を歩くことにする。



11:10 陸奥白浜駅下車 駅は無人駅で駅舎もなく、細長いプラットフォームが一本あるだけ。浜も見えず。
一網戸思ったが、この案内板が浜への道を教えてくれた。 浜に砂鉄があるのだろうか...



陸奥白浜駅 写真忘れているインターネットより



陸奥白浜駅より浜へ降りる道 インターネットより



種差海岸 大須賀海岸・白浜 2014.8.9.
陸奥白浜駅のある段丘の上から東へなだらかな坂道を下って浜に下りると
眼前は広い太平洋の海と長い白砂の浜が南北に広がっていました



白浜から北側へ広く伸びる大須賀浜 砂鉄が堆積して黒ずんでいるのが見える
砂鉄浜 ハ戸種差海岸 2014.6.9



陸奥白浜 大須賀海岸 2014.6.9
案内板から一段下の浜へ降りた所に沿って
砂鉄が文様を描いているのが見られました
この種差海岸 白浜・大須賀の浜が砂鉄浜と確認できました



砂鉄浜 ハ戸種差海岸 2014.6.9. 陸奥白浜 大須賀海岸



白浜から北側へ広く伸びる大須賀浜 砂鉄が堆積して黒ずんでいるのが見える



砂鉄浜 種差海岸 左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺 砂鉄の堆積が多い



砂鉄浜 種差海岸 左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺 2014.6.9.



砂鉄浜 種差海岸 左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺 2014.6.9.



種差海岸の北端 曇雨にかすむ八戸葦毛崎へ 浜に沿う松林が美しい 2014.6.9



種差海岸 白浜 振り返ると 浜の南側 種差・白浜漁港方面 2014.6.9.



11:32 大きな岩の横から 浜の背後の松林の中を走る観光道路へ登り、種差海岸の北端へ景色を眺めながら、北端の葦毛崎展望台から岬を回って反対側の鮫駅へwalk 降りしきる霧雨 風がないのがラッキー 途中路線バスがあれば・・・と。



11:35 浜の背後の松林の中を走る観光道路を種差海岸の北端へ景色を眺めながら、北端の葦毛崎展望台から岬を回って反対側の鮫駅へwalk



砂鉄浜 八戸種差海岸白浜 2014.6.9.



種差海岸 大須賀の浜の北端周辺で 2014.6.9.



種差海岸 大須賀の浜の北端から種差海岸北端で 海岸に続く岩場を眺めながら 北端の岬 葦毛崎へ 2014.6.9



種差海岸 大須賀の浜の北端から種差海岸北端で 海岸に続く岩場を眺めながら 北端の岬 葦毛崎へ 2014.6.9

